



5月を振り返って

5月の教職課程センターは、4年生対象の論文添削指導、教育実習前の模擬授業演習などを中心に活動を行ってきました。また今年度から、東京都、千葉県、相模原市等の自治体では3年次での一次選考の受験が可能になりましたので、3年生対象に受験ガイダンス（実施要綱の説明、過去問の提供）を行ってきました。昨今の教職希望者の減少を受けて、各自治体では受験生の早期確保の動きが強まっています。千葉県・千葉市では今年度より「新卒専願枠」という募集を始めました。これは新卒者に限って一般の受験者より先に別枠で受験を行うという制度です。仮に専願枠で合格に至らなくても、一般受験者と一緒に再度選考されるというシステムで、いわゆる「ダブルチャンス受験」となる制度です。もし千葉県・千葉市を志望するのであれば積極的に使いたい制度です。このように制度変更や新しい制度の設定など、近年の採用選考はいろいろと動きが多いので、常に最新の情報を得て対応するように心がけていきましょう。教職課程センターに登録している皆さんには、最新情報を随時発信していきます。

6月の予定

来月9日にはよいよ採用選考の一次選考が予定されています。4年生は最後の追い込みの時期となります。先輩方の話では、特に教職教養は自治体によって出題の傾向がかなり偏っているようです。過去5年分ぐらいの問題に目を通して、頻出領域に絞って仕上げをするのも良いかもしれません。また今年受験を考えている3年生にとっても、チャレンジする価値は大いにありますので、できる準備を行って試験に臨んでください。二次選考の論文に取り組んでいる人も多いと思います。こちらも随時添削を受け付けていますので、時間を作って取り組んでください。さらに6月から8月にかけては採用選考直前の「集団討論練習会」「個人面接練習会」を実施いたします。詳しい日程・実施要項は別紙でお伝えします。今年度受験する方は、必ず参加してください。ここから本番に向けてギアを一段上げていきましょう。

教育実習後の取り組み

教育実習を終えた皆さん。大変お疲れさまでした。子どもたちとの交流はいかがでしたか？様々な感動や戸惑いもあったことと思います。子どもたちに寄り添い、その成長を支援する、という教員の使命を感じていただけたことと思います。例年実習を終えて「教師を希望する気持ちが一層強くなりました！」という人が増えてきます。今の感動を忘れずに、教職への気持ちを高めていきましょう。実習後に皆さんに取り組んでほしいのが、①お礼状の作成と郵送、②実習校へのあいさつ、です。

☆ 実習校へのお礼状の作成と郵送 ☆

- いつ出すのか 実習後1週間以内
- 誰に出すのか 校長、教科指導の先生、指導学級の学級担任の先生等
- 内容は 相手によって内容は変わる
- 便せんに縦書き、直筆でインクは黒、ワープロ不可、メールは論外
- 項目は ①受け入れてくれたお礼 ②実習で学んだこと ③今後の生かし方 ④継続指導のお願いと結びのあいさつ

☆ 実習校への訪問 ☆

- いつ行くのか 実習後1か月以内
- 誰を訪ねるのか 副校長にアポを取り、校長の予定を聞いてから訪ねる。
- 内容は 感謝の気持ちを述べ、採用試験に向けての決意を伝える
- 持ち物は 手土産（職員の数分）
（手土産は必須ではありません。高価な物を用意する必要もありません。持参できればベターという程度です。）
- 校長 ⇒ 副校長 ⇒ 指導教諭・学級担任 ⇒ 事務・用務主事の順に挨拶する。皆忙しいので時間は短めで。

教員採用選考の倍率低下について思うこと

皆さんも、各種報道で感じていることと思いますが、特にここ1～2年全国的に、教職を志願する学生数が減っています。東京都のデータを見ても、右肩下がりに志願者が減少している様子がよくわかります。複合的な要因があるとは思いますが、最大の原因は、やはり教師の勤務実態が過酷と評価されるレベルなのに、その状態が長年放置されていることに対し、これから教師を目指そうと思っていた学生たちが、一斉に「No！」を突き付けているためではないかと推測しています。私は、若者たちのクーデターと呼んでもおかしくない状況だと思っています。4月から新年度が始まりましたが、多くの自治体で必要とされる教員が確保できず、「担任がいない」状態が続いているという声も聞こえてきます。そんな逆風にさらされている教育界ですが、私は法政大学小金井キャンパスで、教職課程の履修を頑張っている皆さんの存在は、暗闇を照らす一筋の希望の光だと考えています。

確かに教職は、人間相手の仕事であるため、生徒が学校で活動している時間は、教師も生徒に寄り添って見守ったり指導したりすることが必要です。（学校には生徒の安全を確保する「管理責任」があるのです）皆さんも中学校・高校時代は様々な部活動に取り組んできたことと思いますが、部活動の時間帯（放課後）は教師の勤務時間外なので、顧問の教師は全て「奉仕活動」として部活動の指導に当たっています。報酬は出ないのに、責任は負わされるのです。冷静に考えれば理不尽極まりないことです。さらに土日や長期休業中の活動にも付き合わなければならないので、その負担感は非常に大きいものがあります。私達の世代は、昭和から平成にかけて、そんな状態はやむを得ないとして、ずっと異常な勤務を続けてきてしまいました。本来は私たち世代が、異常な働き方に対して異議を唱えなければならなかったのだと反省しています。

しかし、これから教職に就こうとしている皆さんに、私たちと同じ苦しい思いをさせる訳にはいかない、と考えています。遅まきながら文科省、スポーツ庁を中心として、部活動のガイドラインの設定や、授業や生徒指導などの教師の本来業務以外の業務削減や、学校でそれらの業務を担う人材の採用も進んできています。ゆっくりではありますが、状況は少しずつ改善の方向に動き始めていて、各教育委員会も、まだまだ不十分ではありますが、教師をもう一度魅力ある職業にしようと、様々な施策を行い始めています。私たちOBは、生徒に寄り添い、生徒と一緒に成長し、生徒の記憶に残り、生徒が幸福感を感じて人生を生き抜いていくためのサポートができる、素晴らしい教師という職を目指す皆さんを、全力で応援していくことを約束いたします。

東京都の教員採用試験の受験者数の推移

※都教育庁への取材に基づく



教職 TOPICS No.15 教師の武器その2【発問】

前号では教師の武器としての板書の役割と機能についてお知らせしましたが、今回ご紹介する武器は【発問】です。実は授業において、発問は非常に重要な役割を果たします。教師が、その授業を通して目指すゴールに子どもたちを導いていくためには、**意図的に発問を行うことで、子どもたちの思考の流れを作り出すことができます。**その意味で先月ご紹介した「板書」と今回の「発問」は、まさに質の高い授業を作り出すためには、必須の武器と言えるでしょう。

・質問と発問の違い・

皆さんは「質問」と「発問」の違いをイメージしたことがあるでしょうか？まずは両者の違いを知ったうえで、適切に使い分けることから始めましょう。一般的に、両者の性質の違いは以下の様に示されます。

質問：一問一答で、子どもがすぐに答えられる内容についての問いかけ。

質問の例：①砂糖は水に溶けますか？

②植物は呼吸をしていますか？

発問：教師が答えをわかっていて、子どもに考えさせて答えさせたい問いかけ。

発問の例：①水に、できるだけたくさんの砂糖を溶かすためには、どうすればよいと考えますか？

②どのような時に、呼吸は激しくなりますか？

発問の重要な機能は、

1. 子どもの**「経験を思い起こさせる」**ことができる。
2. 子どもが**「すでに持っている知識を総動員させる」**ことができる。

これらの機能は、今取り扱っている教材が、**日常生活のどのような場面と結びつか**考えさせるきっかけとなるので、より「深い学び」へと子どもたちを導くために大変有効です。さらに発問を行うことで、子どもたち同士の「討論」や「教えあい・学びあい」へと発展させることもできます。そのため「発問」は、今求められているアクティブラーニング【主体的・対話的で深い学び】を実践するための、大変有効な武器となるのです。ぜひ皆さんも授業者として様々な発問の工夫にチャレンジしてみてください。

発問をきっかけに展開するアクティブラーニング

授業の目的

子どもに気づかせる

子どもに説明させる

子どもに教えさせる

活動の主役は子ども

教師の活動

だけ

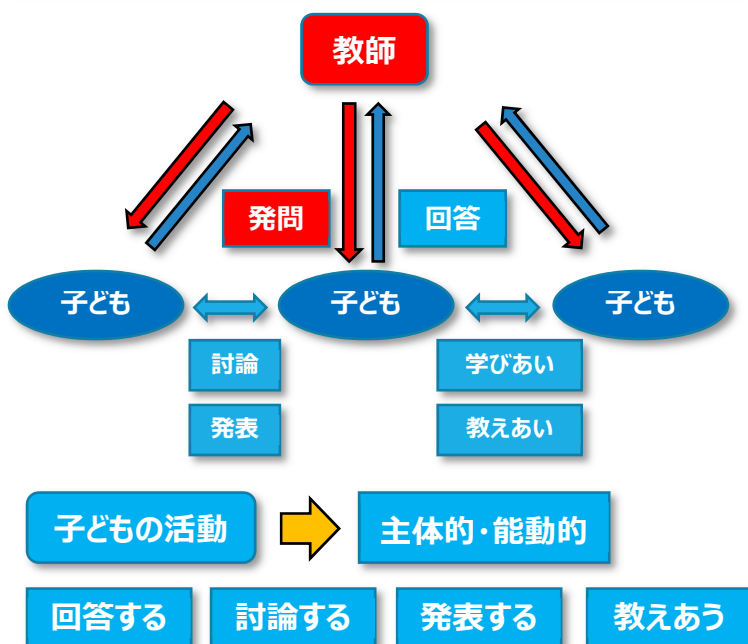
発問する

キーワードを提示する

教えない！

だけ

これが難しい！
ガマンのしどころ



アクティブラーニングにおける「発問」の種類と目的について

「深い学び」を促すための「発問」

発問の種類	発問の目的	発問の例
思考を促す	事象をとらえさせる	～から何が読み取れますか。
	解釈させる	～から何がわかりますか。
	予想させる	～はこの先どうなると思いますか。
	考えを広げさせる	～から気づいたことはありますか。
	比較させる	AとBではどこが違いますか。
	分類させる	これらの共通点・違う点はどこですか。
	関係づけさせる	AとBにはどのような関係がありますか。
	根拠を挙げさせる	どうゆう理由で～になると考えますか。
	判断を促す	選択させる
検証させる		どのような結果になりましたか。
表現を促す	文字に表させる	～について考えたことを書いてください。
	図／絵で表させる	～について考えたことを絵に描いてください。
	言葉にさせる	～について考えたことを発表してください。
	体で表現させる	感じたことを身体で表現してみましょう。
問題解決を促す	問題を発見させる	何が問題ですか。何を解決しますか。
	道筋を考えさせる	どういう順番に考えていけばよいですか。
	課題を解決させる	どうすれば解決することができますか。
	課題を抽出させる	解決を妨げている原因は何ですか。
	助けを求めさせる	解決するためにどんな支援が必要ですか。

アクティブな授業を受けた子どもたちのリアクション

